

日中環境教育協力

エコアップによる環境教育

- まちの自然を豊にする計画づくりの紹介 -

環境・国際研究会誌 2000年6月 小寺正明

北京及び武漢で、エコアップのために調査し、エコアップの計画づくりの活動を通じた、環境教育の方法を紹介したので、概要を紹介する。

環境教育ではどんな人を育てるのか。環境問題には答えはあるがどれが正解か分からない。したがって、自分で考え、自分で決定できる人を育てることと思う。環境教育では「環境問題を解決し、環境問題を未然に防止し、環境を改善する能力」を養う。行動しなければ何も変わらないので、行動することが重要である。実際に「環境を改善する活動」を行い、その活動を通して環境を学ぶことにより前述の能力を養うことができるだろう。その活動を実際の環境保全活動・環境まちづくりにつなげたい。

1. 自然を調べる

方法：会場の庭の自然を調べてマップにする。それを発表して評価しあう。

- (1)これから始めるワークが円滑にいくように、導入としてインタビューゲームを行う。
- (2)5・6人のグループを作り、各人に記録用に紙を渡す。
- (3)グループで会場の庭で植物と虫や鳥などの生き物を調べる。
- (4)グループで相談し、全員で調べた対象地の自然を大きな紙に絵に描いてまとめる。
- (5)まとめた結果をグループ全員で発表し、質疑応答する。



調べた結果を相談しながら図にまとめる。

2. まちの自然を豊かにする（エコアップ）計画づくり実習

方法：会場の庭の自然調査をした後で、グループで相談してエコアップ（自然を豊かにする）の計画を作り発表する。

- (1)自然（生き物、植物、動物）を豊かにする計画をグループで相談する。
- (2)グループ全員で自然を豊かにする計画を絵に描く。
- (3)グループ全員で計画を発表し、質疑応答する。
- (4)振り返りシートに記入し、学んだことを確認する。
- (5)学んだことを分かち合う。



参加者の作ったエコアップの計画図

参加者の反応

朝陽区の参加者は小学校の先生が多く、夢のある計画が多かった。

海淀区の参加者は生物の先生が多く、調査は詳細に行い、その結果が発表に現れていた。また、エコアップの計画作りでは、実現可能性を考慮して作っていた。その分夢のある計画図は少なかった。

参加者の感想

参加者は話し合いや、絵を描くワークを実に生き生きとしてやっていた。参加型の環境教育は中国人に向いている方法と思われる。次に参加者の感想の概要を箇条書きにまとめる。

- ・ 学習意欲や参加意識が喚起された。
- ・ 関心や興味を引き立てられた上、観察力、考える力、想像力、行動力、創造力など潜在している多方面の能力を養うことができる。
- ・ 情報を交流することによってそれを共有し、視野を拡大する。
- ・ 身近な環境問題を知って自然に親しむ感情や自然を大切にする自覚や環境意識を養えば自ら行動に移るだろう。